

# 法名・院号・過去帳

## 法名とは

- 「法名」は、仏法に<sup>きえ</sup>帰依し釈尊の弟子となった人の名前です。
- 「法名」は「釋〇〇」の2字です。
- 「法名」は「<sup>ききょうしき</sup>帰敬式」を受式してご門主からいただくものです。
- 「法名」は生きている間にいただくものです。

## 〈法名Q & A〉

Q 「法名」と「戒名」はどちらがうのですか？

A いずれも、仏教徒としての名前を表す言葉ですが、浄土真宗では「法名」、他宗では「戒名」といいます。

戒名は、厳格な規律（戒律）を守って仏道修行する人びとにつけられる名前です。

それに対し、浄土真宗では、戒律の一つも守ることのできないこの私たちを、かならずすくい浄土へ迎えるという阿弥陀如来のはたらきを「法」とよび、その法のなかに生かされている私たちがいただく名前を「法名」といいます。

Q なぜ、法名には居士や大姉等の位号がつかず「釋〇〇」だけなのですか？

A 浄土真宗のみ教えは、みな等しくともにお浄土への道を歩ませていただくという教えですから、「釋〇〇」の法名以外に「<sup>しんじ</sup>信士・<sup>しんによ</sup>信女・<sup>こじ</sup>居士・<sup>だいし</sup>大姉」等の修行生活の形態を<sup>いごう</sup>あらわす位号など必要ありません。

Q お世話になっているお寺から法名をいただけると聞きましたが？

A 本山で帰敬式を受け、ご門主から法名をいただくのが本来の形です。しかし、帰敬式を受けずに亡くなられた場合に限り、所属寺の住職から「釋〇〇」という法名をいただきます。

## 院 号

- 院号<sup>いんごう</sup>は、永代経・門徒講等で一定額以上の懇志を進納された方など、宗門の護持発展に貢献された方、または宗門もしくは社会に対する功労が顕著であると認められた方に、宗門より授与されます。
- 院号は、漢字2字（〇〇院）とし、宗門から授与されるもので、これ以外の院号は用いることができません。

## 過去帳

- 過去帳<sup>かこちよう</sup>は、故人の法名<sup>ぞくみよう</sup>、俗名、命日等を記録するものです。
- 過去帳は礼拝<sup>らいはい</sup>の対象ではありません。真実の教えを聞き、本願を信じて念仏するものは、阿弥陀如来のはたらきによってさとりをひらいた仏と成のですから、礼拝の対象はご本尊の阿弥陀如来です。